

文化庁

44. 2

〈月報〉

昭和44年2月1日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課
発行

東京都千代田区霞が関3-2-2

電話 代表 (581) 4211

郵便番号 100

—〈第6号〉—

(題字=今日出海 文化庁長官)



・ も く じ ・

▽ 昭和四十四年度文化庁予算案

芸術文化の振興……………2

文化財保護の推進……………4

国際文化交流の推進……………6

文化庁予算要求事項別表……………7

▽ 明治百年記念芸術祭授賞式……………6

▽ 重文・銅造摩耶夫人及

天人像の模造実施……………8

▽ 文化庁日誌・人事異動……………8

△写真Ⅱ重文・銅造摩耶夫人及天人像▽

この写真の四軀一具は、摩耶夫人がルンビニ園内散策中、無憂樹の下でその花をとろうとして右手をさしのべたとき産気づき、右脇から釈迦が生まれたという仏伝中の説話の情景をあらわした群像である。降誕の瞬間に天人が飛来して賛嘆する場面で、インドの浮き彫りや中国の絵画遺品を除くと例が少なく、こうした形式の誕生仏としては、わが国唯一の作品である。(なお、童形の釈迦がその右手を天に、左手を地にさす形の、通例の誕生仏は、この情景に続く一場面である。)一具の制作は飛鳥時代と考えられ、天人三軀のうちの一軀は中世の補作である。

ロートレック展における盗難事故

—美術品等の管理について通達—

京都国立近代美術館では、昨年十一月一日から、同館・読売新聞社・アルビ美術館（フランス）共催、文化庁・外務省・フランス文化省・フランス外務省等後援による「ロートレック展」が開催されたが、最終日の十二月二十七日、一階中央部に展示されていたロートレック作「マルセル」（油彩カルトン六号大）が紛失した。

この事件はまことに遺憾であり、その原因、状況等については目下警察に

より調査中であるが、これを機会に、文化庁においては、同館のみならず、国立の美術館、博物館の陳列品や収蔵品の管理体制その他の管理の状況について総点検を行ない、このような事故が再びくり返されることのないよう関係付属機関に特に通知した。

なお、この総点検の結果に基づく問題点およびその対策について二月二十一日に文化庁で協議会を開く予定である。

文化庁

〈月報〉

44. 3

昭和44年3月15日 発行

編集 文化庁長官官房庶務課

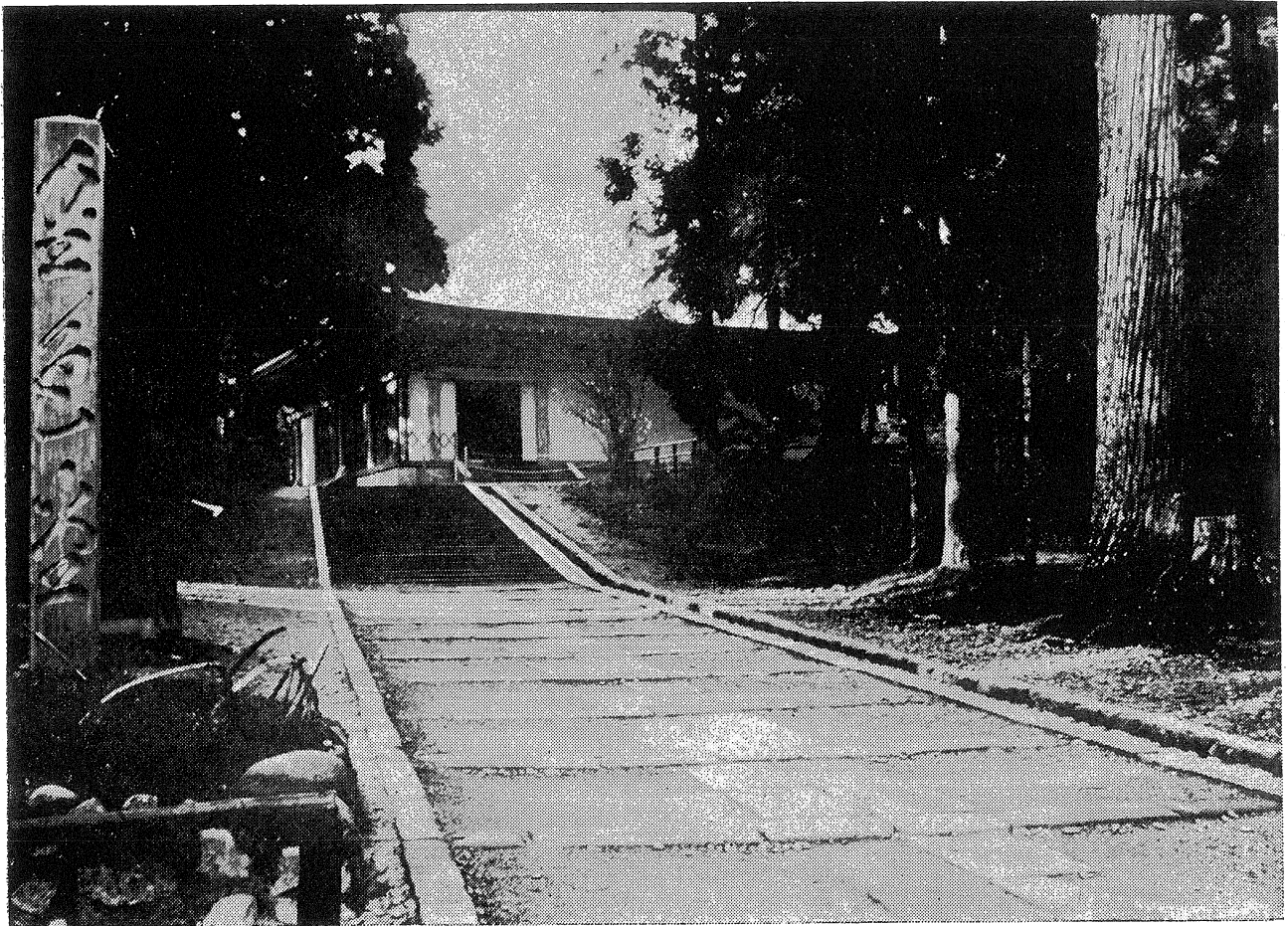
発行 東京都千代田区霞が関3-2-2

電話 代表 (581) 4211

郵便番号 100

—〈第7号〉—

(題字=今日出海 文化庁長官)



・もくじ・

▽文化行政について

―教育モニター報告―……………2

▽美術品の管理に関する会議……………4

▽昭和43年度芸術選奨決まる……………5

▽優秀美術作品買上げ決まる……………6

▽公立文化会館の整備費補助決まる……………7

▽芸術文化関係民法法人新設……………8

▽宗教関係法人新設……………10

▽日本古美術海外巡回展仮調印……………11

▽文化財関係補助金交付(最終回)……………12

▽モデル地区だより……………14

▽文化庁関係昭和44年度行事一覧……………15

▽文化庁日誌・人事異動……………16

△写真▽中尊寺金色堂收藏庫

国宝中尊寺金色堂は、平安時代の後期(一一二四)に建てられたもので、従来は覆堂(おおいどう)(重文)でおおわれていたが、昭和三十七年度から四十三年度にわたる修理工事により、覆堂を解体移築し、それに代えて鉄筋コンクリートの新收藏庫を建設した。写真の建物は新收藏庫で、金色堂そのものはこの中に収められている。

美術品の管理等

に関する会議

2月21日、国立教育会館で開く

文化庁では、「美術品等の管理等に関する会議」を、二月二十一日、国立教育会館において開催した。

この会議は、国立の博物館、美術館等における美術品や工芸品などの(1)管理の問題および(2)写真撮影等の問題について、研究協議するために開かれたもので、各館等の庶務、会計および美術系統の部長十七名が出席したほか、文化庁からは次長以下関係部課長および文化財鑑査

官が出席した。

初めに安達文化庁次長から、「(1)昨年暮れ、京都国立近代美術館で開催中のロートレック展の会場から絵画『マルセル』が盗まれるという事故が発生した。これを機会に、管理の万全を期するため、各館等に美術品等の管理についての総点検の実施をお願いし、問題点とその対策についてとりまとめたものを提出願った。これについて項目を整理したので、今日の研究協議により、将来、館の管理要領や執務要領を定める際の基本的な考え方を固めていきたい。(2)美術品等の写真撮影等については、各館等で取り扱いが異なっている面があるが、これをできるだけ同じような取り扱いとするようにした

いので、試案をまとめてみた。ご検討願ひ、意見がまとまれば新年度から実施したいと考えている。」と、会議開催の趣旨についてあいさつがあった。

つづいて協議に入り、森永東京国立博物館総務部長を座長として、あらかじめ整理された美術品等の管理に関する問題点について協議が行なわれたが、問題点のおもな項目は、次のとおりであった。

- (1) 管理責任の明確化
- (2) 管理方法の合理化と保全措置の強化
- (3) 警備体制の確立
- (4) 防犯設備の充実
- (5) 特別展・共催展における特殊な問題の対策の確立

次に、美術品等の写真撮影等の問題について、内山文化庁文化財保護部長の司会で文化庁提出試案の検討が行なわれたが、時間の都合で結論を得るまでには至らなかった。各館等は、二月末までに文化庁に意見を提出することとし、新年度から新しい基準により実施することを目標に、今後も検討を続けることになった。

最後に、無料観覧日制度について意見が交換され、会議を終了した。午後一時から七時半までの長時間にわたる会議であったが、出席者は終始熱心に討議に参加され、充実した会議であった。

×

×

×